

教科等研究会（小学校図画工作部会）

令和4年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

つなぐ・つながる造形教育

自信をもって、意欲的に表現活動に取り組む児童生徒の育成

児童生徒が安心して制作できる題材と授業展開の工夫

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
6/6	24人	滝尾小学校	8/2	御船中学校	実践報告 宇城・上益城大会 県図工美術教育研究会 作成	10/21	甲佐中学校	実践報告 宇城・上益城大会 県図工美術教育研究会 内容検討会	1/26	益城中学校	授業書 高村緑教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① テーマについて

本年度は、熊本県図画工作・美術教育研究会 宇城・上益城ブロック大会に向けて、大会の研究テーマに沿って研究を進めていった。本年度の上益城郡教科等研究会全体テーマ「児童生徒一人ひとりが輝く『分かる・できる』『楽しい』授業づくり」を、図画工作科の特性を生かし、より具体化した研究となった。

図画工作科の目標は、「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成すること」を目指している。しかし、図画工作科の授業において、「不器用だ」「不得意だ」と苦手意識をもって過ごす子どももいる。そのような子どもたちも全員が参加でき、理解し、習得し、活動していくことができるようにすることが求められる。そのため、授業のUD化の視点を持ち、「焦点化」「視覚化」「共有化」を図り、昨年度に引き続き「自信をもって、意欲的に表現活動に取り組む児童の育成」「児童が安心して制作できる題材と授業展開の工夫」を研究していくこととした。

研究の視点として、以下の3点を挙げ、研究に取り組んだ。

- (1) 児童生徒が自信をもって制作に取り組める題材の工夫
 - ア 児童生徒の発想・構想が生かされる題材の工夫
 - イ 失敗を恐れず制作に取り組める題材の工夫
 - ウ 生徒の実態に応じた教材の設定の工夫
- (2) 児童生徒が自信をもって制作に取り組める授業展開の工夫
 - ア 分かりやすい授業展開の工夫
 - イ 児童生徒が見通しをもつことができる授業展開の工夫
- (3) 自分の思いを表現できる、自由に言える人的環境や学習空間づくり

② 県大会に向けて【実践報告のまとめ】

本部会では、本年度の県大会に向けて授業実践をまとめていった。県大会は新型コロナウイルス感染拡大防止として「熊本県図画工作美術教育研究会」ホームページでの発表（R5.2月掲載）となった。昨年度、大会テーマに沿って行った授業実践を低・中・高学年の3本の報告にまとめ、上益城からは小学校・中学校合わせて4本の授業実践報告を挙げた。WEB発表の特性を生かし、指導案の中に動画を組み込み、具体的な指導の様子を視聴できるようにした。また、動画に研

究の視点のテロップを挿入し、より指導を分かりやすく解説する工夫を行った。(8月:感染拡大防止のため少人数での実施)

【実践報告】

- ① 題材名 「ちぎって はって」 小1年
授業者 上野 沙耶加(広安西小学校)
- ② 題材名 「今の自分の姿を作品にのこそう ～未来へはばたけ! 10才のぼく・わたし!～」 小4年
授業者 五反田 美智乃(小坂小学校)
- ③ 題材名 「龍を見る」 小6年
授業者 天川 元貴(益城中央小学校)
- ④ 題材名 「なるほど! な絵文字をつくろう」 中1年
授業者 片岡 佳奈子(甲佐中学校)

おしらせ

宇城・上益城 ブロック大会



第64回熊本県図画工作・美術教育研究会 宇城・上益城ブロック大会

大会挨拶 概要 プログラム一覧 題材名 ちぎって はって 授業者 上野 沙耶加(広安西小学校) 場所 1年2組教室
題材名 未来へはばたけ! 10才のぼく・わたし! 授業者 五反田 美智乃(小坂小学校) 場所 4...

「熊本県図画工作美術教育研究会」ホームページで2月に発表

③ 授業研究

本年度の授業研究は、実践発表のまとめに加え、小学校・中学校合同で1回研究授業を行った。

【中学校での研究授業】

益城中学校 高村 緑 教諭 第1学年 「カメラを使った遠近法」

(2) 成果と課題

- 実践報告を作成するにあたって、研究の視点に沿ってより具体的に実践のふり返しを行うことができ、授業の成果や改善点がはっきりと見えた。
- 宇城との共同発表であったため、互いの地区の実践を学び合うことができた。今後の子ども達への指導にしっかりとつなげていきたい。
- △ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実践報告のまとめは少人数で行った。そのため、部会員全員が、視点に沿って授業をふり返ることができなかった。

4 実践事例

(1) 実践報告の概要

【中学年の実践報告】 小坂小学校 五反田美智乃 教諭 第4学年1組

図画工作科 「今の自分の姿を作品にのこそう ～未来へはばたけ! 10才のぼく・わたし!～」

本教材は、子ども達が二分の一成人式を迎えるにあたり、その記念として今の自分の姿を粘土を使って表現するという教材である。粘土の可塑性を活かして手や用具を使って、自分の表したいことを試行錯誤させながら作品を制作させていった。子ども達が見通しをもって意欲的に表現活動ができるよう、制作の順序を視覚的に示したり、参考作品の提示や技法の指導などの場면을効果的に設定したりするなどの工夫を行った。また、友達とアドバイスし合う「いいねタイム」を設け、自信をもって制作に取り組めるようにした。



実践報告のまとめでは、それらの場面がホームページの閲覧者に分かりやすいように、指導場面の動画に研究の視点の解説を加えて、指導案に掲載する工夫を行った。

「今の自分の姿を作品にのこそう」 五反田 美智乃(小坂小学校)

題材名 今の自分の姿を作品にのこそう
～未来へはばたけ！10才のぼく・わたし！～
授業者 五反田 美智乃（小坂小学校）
場 所 4年1組教室

題材について

本題材では、二分の一人式を迎えるにあたりその記念として今の自分の姿を、粘土を使って製作する。粘土の可塑性を生かして、手や用具を使って形を作ったり、絵の具を混ぜて色を付けたりして、表したいことに合わせて工夫しながら作品をつくらることができる題材である。また、自分の感覚や手を働かせ、試行錯誤しながら作品を作ることで、図画工作に必要な創造力を養うことに適していると考えられる。

上益城郡の研究視点から

・児童が見通しを持って製作に取り組むことができるように、学習の流れを提示したり、ヒントや参考作品、技法を紹介したりする。

指導計画（5時間）

- ・自分のテーマと設計図をもとに、形や色をどのように表現するかを考える。
- ・粘土に色を付けたり、粘土をつけたりのぼしたりしてイメージを広げ、表し方を工夫して作品をつくる。（2時間）



- ・自分のテーマに合う作品にするために、手や用具を使って形を作ったり、絵の具を使って色を付けたりして、表し方を工夫する。（本時）
- ・テーマに近付くように、粘土に色を付けたり形を変えたりして、構成を考える。（2時間）



- ・作品を相互鑑賞し、お互いのよさや工夫から、自分の作品を振り返る。（1時間）

題材の目標

知・技

- ・粘土に触れたり動かしたりして、形の感じや変化が分かる。
- ・手や用具を使いながら、いろいろな形の表し方を工夫することができる。

思・判・表

- ・粘土をつけたりのぼしたりしてできた形の感じをもとに、イメージを広げ、どのような形にしたいかを考えることができる。
- ・形や色、それらの組合せによる感じ方をもとに、自分のイメージをもち、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げることができる。

主

- ・粘土の感触を味わいながら、進んでつくることを楽しむことができる。

本時の目標

目指す子どもの姿
二分の一人成人式を迎えるにあたり、今の自分の姿を作品として残すために、形や色、用具を選びながら、進んで製作に取り組むことができる。

児童生徒の実態

図工の授業に意欲的に取り組む児童が多くいる一方で、自分の作品に自信が持てず、苦手意識を持っている児童も数名いる。

県大会研究の視点から取り組む手立て

- ・「二分の一人成人式の記念として作品をつくる」という単元のゴールを設定することで、児童が目的意識を持って意欲的に学習に取り組むことができるようにする。
- ・作品例や活動の流れを視覚的に提示し、児童が見通しを持って安心して活動できるようにする。
- ・児童が、互いに作品のよさを伝えたりアドバイスしたりする時間を設定し、自信を持って製作に取り組むことができるようにする。表現の工夫を全体で共有化し、自分の作品に生かすことができるようにする。

学習活動

📖 前時の学習を振り返り単元のゴールに向けて、本時では何を学習するのか確認する。(5分)

📖 前時に見つけた表現の工夫を想起させ、共有する。(5分)

📖 首や体の部分を粘土で作る。活動の途中で、友達と作品を見せ合い、よさや困っていることを伝え合い、アドバイスし合う。(ペア→全体)(30分)

全体で、本時の学習を振り返り、次時への学習の見通しを持つ。(5分)

発問や指示

二分の一人成人式の記念品づくりで、前は頭と顔の部分を作りましたね。今日はどこの部分を作りますか。

友達の作品を見てください。どんな工夫がされていますか。

(主発問)
自分の表したいことを表現するには、どんな表し方(形・色)をすればよいかな。

よいところや困っていることを友達と伝え合い、アドバイスしましょう。

自分の表したいことを表現するために、どんな表し方をすればよいかな、見つけることができましたか。

研究の視点

【視覚化①】

📖 参考作品と学習の流れ、前時までの児童の作品を提示し、学習内容をイメージしやすくする。

【焦点化】

「形・色」という視点を示し、どんな工夫をすればよいかを考えながら活動できるようにする。

【視覚化②】

📖 何を、どんな順序で作ればよいかな、図で示しながら作業の流れを確認する。

【共有化①】

📖 「いいねタイム」を設け、よいところや困っていることを伝え合い、表現の工夫を全体で共有する。

【共有化②】

本時のまとめを全体で行うことで、学びの共有化をはかる。